香川の野鳥ファイル No.54 アオサギ

今は「普通種」だけれど…

アオサギ *Ardea cinerea* は、亜種アオサギが本州から九州で繁殖しています。北海道では夏鳥、沖縄では冬鳥とされています(日本鳥学会,2012)が、北海道でも各地で越冬個体はいるようです(河井ほか,2003)。

香川県でも、現在では珍しい種ではありません。しかしかっては四国全体で非常に珍しい種でした。今回は、四国・香川の文献を整理しました。

ご覧のように、香川県では一部越冬するものの、基本的は夏鳥でした。ただ明確な繁殖記録は無く、夏に少数が一時的に渡来していたのか、営巣までしていたのかは不明です。香川県で増加しだしたのは1980年代後半。そして1990年代後半になり、ようやく「夏鳥(一部越冬)」から「留鳥」へと認識が変わりました。つまり、私たちが感じている普通種としてのアオサギは、ここ20年程度の状況なのです。

アオサギが減少していた理由は文献№2の記載されている農薬使用による餌の減少や、戦中・戦後の薪炭林の伐採による営巣林の減少と思われます。それを踏まえれば、今目の前にいるアオサギは、日本の環境破壊と改善の記録ともいえます。「普通種」として見過ごしがちな野鳥ですが、しっかりと観察・記録しましょう!

文献No.	記録年(刊行年)	記載(抜粋)
1	不明　(1968)	留鳥（夏）１部渡り鳥 本県に多い、ため池で見られる。特に秋水の少ない頃に見られる。三豊郡高瀬町に多い、又大川郡引田町附近にも相当数見かけられる。
2	不明　(1973)	※四国全体の記録　留鳥で主に低山帯の水田や池、沼または海岸の遠浅や、干潟などで単独生活をしているが、最近は著しく減少し、その姿を認めることはまれである。従来、田園地帯の水溜りでは、水田に農薬を使用した結果、この影響を受けて、これに接する池や沼などには、彼等の食餌となる生物の生存が認められなくなったことが、減少の大きな因をなしているものと思われる。／四国では留鳥ではあるが、きわめて少なく、ほとんど単独生活を認めるのみで、したがって本種の巣を未だ認めないが、営巣繁殖の可能性はあると思われるので(以下略)
3	不明　(1975)	(夏)　冬期南方に移動するが一部は県内で越冬する。大型の池で見られるが，個体数は少ない。
4	不明　(1982)	※四国全体の記録　留鳥。　四国各地で、その姿は珍しいものではないが、徳島県牟岐町大島の岸壁に茂ったウバメガシ上に集団営巣する。(略)古老の話では、かつて愛媛県東予地方でも繁殖するものがあったという。
5	不明　(1984)	その数はそんなに多くない。
6	1981～1988 (1989)	県下で，アオサギが年年増えているように思う。ここ，本島でも，83年ごろまではめったに見ない鳥であったが，いつの間にか，あまりめずらしくはない鳥になった。
7	不明　(1993)	夏鳥　本県での生息数も多く，近年増加している野鳥である。
8	不明　(1996)	留鳥　多　よく見られる

・1968, 岡内英孝. 香川県に於ける野鳥の生態, 岡内英孝 【文献No.1】
・1973,和田豊洲.「四国の野鳥」.高知営林局 【文献No.2】
・1975, 香川県環境保健部.「香川県のとりとけもの 昭和50年3月」、香川県環境保健部 【文献No.3】
・1982,石原保.「四国の野鳥誌」.築地書館株式会社 【文献No.4】
1984, 山本正幸 編集:高松市立図書館. 市民文庫シリーズ11 香川の野鳥, 高松市立図書館 【文献No.5】
・1989.金関正彦,「丸亀市本島の野鳥雑録(1981～1988)」,62種,「香川生物」(香川生物学会) 【文献No.6】
・1993, 香川県. 香川県のとりとけもの 平成5年3月, 香川県 【文献No.7】
・1996, 四国新聞社 編集協力:(財)日本野鳥の会香川県支部. 香川の野鳥ウォッチングガイド 【文献No.8】
・2012, 日本鳥学会. 日本鳥類目録改訂第7版, 日本鳥学会